

# 1. 評価報告概要表

評価確定日 平成21年5月1日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2277102428		
法人名	株式会社 脳リハビリネットワーク		
事業所名	ねんりんはうす佐鳴湖		
所在地 (電話番号)	浜松市中区富塚町2284番地の4		(電話) 053-476-6300

評価機関名	静岡県社会福祉協議会		
所在地	静岡市葵区駿府町1-70		
訪問調査日	平成20年12月19日		

## 【情報提供票より】(20年11月28日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 12月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 13 人, 非常勤 5人, 常勤換算	16.7 人

### (2) 建物概要

建物形態	併設 <input checked="" type="radio"/> 単独 <input type="radio"/>		<input checked="" type="radio"/> 新築 <input type="radio"/> 改築	
建物構造	鉄骨 造り			
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分	

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円	
敷 金	有( 円) <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> 420,000 円	有りの場合 償却の有無	有(期間:5年)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	1日当たり		1,840 円	

### (4) 利用者の概要(11月28日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名	
要介護1	3 名	要介護2	6 名			
要介護3	7 名	要介護4	2 名			
要介護5	名	要支援2	名			
年齢	平均	81.8 歳	最低	71 歳	最高	91 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	県西部浜松医療センター 高橋内科医院 酒井歯科医院		
---------	---------------------------	--	--

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、市街地に隣接する佐鳴湖の水と緑に恵まれた、風光明媚な環境の中にある。市内中心部からもさほど遠くなく、商店等も多いため、日常的な散歩や、積極的な外出支援のケアは、利用者にとって生活の幅を広げると共に、ホームが目指す脳リハビリによる在宅復帰も着実に実績を伸ばしている。職員の明るさと、優しい対応の中にあるきびきびとした行動は、利用者・家族の信頼と安心につながっている。評価の意義を全職員が理解し、今回の自己評価も全員で取り組み、自己研鑽の良き機会と捉えている。職員は、利用者一人ひとりのペースを大切に、個々の役割を支えていく関係作りが築かれているホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>介護計画様式や、運営推進会議開催回数等、前回評価での改善課題を全職員で検討し、殆どの項目について、改善に結び付けている。地域住民を巻き込んだ避難訓練等、実施に向けて引き続き検討している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員一人ひとりが自己評価票に記入し、まとめは管理者が行った。その後、課題となった項目をケア会議等で話し合い、改善に向けて取り組んでいる。職員は「評価票の記入に大変苦慮したが、自己のケアを見直す良い機会だった」と捉えている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は自治会長、民生委員、利用者・家族、行政担当者、職員で構成されている。それ以外に消防士、交番職員、美容師、地域住民が随時出席して、2ヶ月に1回定期的に開催している。内容は、ホームの現状や利用者の日常生活を紹介したり、参加者の意見や地域の行事、行政の情報等を提供していただき、活動の幅を広げると共にサービスの向上に努めている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の訪問時には管理者や職員が声かけし、家族が意見や要望を言いやすい雰囲気を作り、不満や苦情に繋がらないよう早めの対応に努めている。家族会を年2回開催し、家族同志がミニパーティーやゲームを楽しみながら交流を深め、意見や要望が出やすい環境作りに配慮している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>運営推進会議で地域代表から出される情報や、日頃交流が深い自治会長等からの各種行事へのお誘いにより、敬老会等に参加している。日常生活においても、散歩や買い物、外食等の機会に地域住民との交流を深め、顔なじみの関係が広がっている。</p>

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人グループの理念とは別に、ホーム独自の理念を作りあげ、心を込めたケアと地域交流を重視している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、法人グループの理念及びホーム独自の理念を理解・共有しており、日々のケアの実践に活かしていることが伺えた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議の場や、自治会、民生委員等から情報を得て、公民館祭りへ出展したり、敬老会等へ参加している。また、内部で組織する地域交流委員会も活発に行われ、日々の散歩を通して、近隣の人と挨拶を交わしたり、野菜等を頂くなど、交流を深めている。	○	地域の高齢者福祉の拠点として、相談や出前講座、介護教室など地域へ還元する活動等、双方向的な交流を目指すことも期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員一人ひとりが評価の意義を理解し、自己評価票を各自記入し、管理者がまとめあげた。記入には苦労したものの、ホームの役割や、自分たちのケアを見つめ直す良い機会と捉えている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、定期的開催している。地域代表として自治会や民生委員等の固定メンバーの他、随時、老人会や消防士、美容師、地域住民に参加協力を呼びかけ開催している。地元住民の理解があり、参加要請に対し、快く参加がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市が企画するグループホーム相互交換研修にエントリーしている。その他、市主催の各種セミナーに参加するなど行政との連携を図り、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の訪問時に、管理者や職員が声かけしたり、電話で利用者の状況を伝えている。ホームだより「さなるこ通信」に加え、法人グループの「脳リハだより」を発行し、ホームの近況や、利用者の生活ぶりを家族に発信している。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>年2回の家族会は、家族同志の交流の場として、ミニパーティーやゲーム等、和やかな雰囲気の中で、お互いの意見や要望等、出しやすい様子が伺える。家族の訪問時にも、相談しやすい雰囲気作りと、苦情等への早めの対応を心掛けている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動や離職を最小限に抑えるため努力し、ここ1年間は、交代がない。やむなく異動等発生した場合は、家族や利用者へ極力ダメージを与えないよう配慮している。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>行政や社会福祉協議会が主催するセミナーや、法人グループ内の委員会で企画する研修会に参加し、スキルアップを図っている。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡協議会が主催するセミナーに参加したり、市が企画する相互交換研修へエントリーし、同業者との相互訪問を行うことにより、お互いの良さを取り入れる等、質の向上に努めている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者は、系列クリニックからの紹介が多く、クリニックでの情報収集と、見学・面会の機会を多く作り、利用者の理解を進めてから入居に任せるようにしている。入居後も、慣れるまでは、利用者への配慮を心がけ、得意なこと力発揮できるような個別ケアを重視するように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、一緒に生活しながら、礼儀作法や人間関係の対処法、洗濯物の干し方、食事作りなど多くのことを利用者から学び取っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時、家族にセンター方式のシート記入を依頼し、基本情報や生活歴などの情報を分析し、意向の把握に努めている。入居後も、家族からの情報を随時いただいたり、利用者との会話の中から意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の記録を基に作成された暫定プランを回覧し、職員全員が気づいたことを記入し、作成している。家族には、現状と共にプランを説明し、理解を得た上で、署名をもらっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しは6ヶ月としているが、急変時には随時見直しを行っている。日々の記録をもとに、2週間ずつ日常的な支援の見直しを行い、その経過を一月ごとにチェックし、継続・見直しを検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	職員体制を整え、家族の協力も仰ぎながら、自由に外出できるよう支援したり、公民館祭りへの出展、敬老会への参加、生花教室へ通うなど可能な限り要望に応えている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医院への通院は、職員が付き添っている。かかりつけ医への受診は、家族の協力を得て安心して医療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、重要事項説明書の「看取りについての当施設の考え方」、「看取りの条件について」という書類により、ホームの方針を説明し、家族から同意を得ている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	守秘義務を職員に伝えている。外部への便りは、名前や認識できる写真を除き、予定のカレンダーには、通院日等イニシャルで掲示している。また、学会での発表時は、家族の許可を得ている。日々の言葉掛け・対応は優しく、一人ひとりのプライバシーに配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを大切に、その人らしい暮らしを支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒にテーブルを囲み、季節の話題などを楽しみながら食事をしている。利用者は、準備や片付けを、個々の力量に応じて手伝っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員体制による安全面に配慮し、午後のアロマや入浴剤を用いて入浴している。入浴できない方にはお茶を用いた足浴で対応している。利用者と職員が、ゆったり関わられる大事な時間と捉え、楽しめる入浴を心がけている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生き活きと過せるよう、手芸・習字・洗い物・生花など得意分野を発揮できる場面を工夫している。家族会では、クリスマス会とお花見を開催し、一緒に楽しく過ごす時間を大切にしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	脳リハビリの一環として、毎日の散歩を取り入れている。館山寺やフルーツパーク、百貨店の生花展、外食など「その人らしく」を引き出すような個別支援をしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯上、日中でも門扉は施錠している。利用者の出入りに不自由が無いよう注意している。	○	鍵をかけない支援のために、何が必要か、どんな工夫ができるのか、職員間で定期的に検討されたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、昼夜を想定した、避難訓練を行っている。救急マニュアルを作成し、連絡体制も整っている。法人で危機管理委員会を設け、研修を開催している。	○	地域住民に対し、消防署による救急手当講習会を開催したり、また、一緒に避難訓練をしたり、災害時には地域の拠点となるなど、双方向の協力体制の構築を、運営推進会議等で働きかけられたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士が献立を作成し、栄養や水分量に配慮している。一人ひとりの状態に合わせた量や、提供方法を工夫し、支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく広い居間、ゆったりとした食堂、広い廊下にはソファが置かれ、季節の飾りや、手作りの作品が飾られている。みんなで過したり、ひとりになれたり、居心地の良い共用空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居以前に使っていた家具・調度類が持ち込まれ、各々好みに合った居室となっている。今までの生活と変わらぬよう、畳や、ベッドを選び、家族の写真や手作りのものが飾られている。		